

ステークホルダー・ボード歴代委員等からの提案・要望（令和1～4年度）

(1) 提案・要望

区分	No.	意見（過去の「ステークホルダー・ボード 主な意見」より抜粋）
公表項目	1	認証評価結果を見ようとしても、適合になる前の認証評価結果ページにリンクされている場合がある。大学ポートレートでは大学が掲載したくない情報を掲載しなくても公表が行われる。認証評価結果を大学の判断で意図的に掲載しないというのは、消費者保護の観点から言えば厳しい。正確な情報提供の仕組みを作った方がよい。
公表項目	1	第三者認証評価機関の評価について、リンク先が大学公表ページではなく認証評価機関のホームページとなっている大学があり、適合、不適合の結果がすぐ分からないのは課題である。
公表項目	1	高校の先生も含めて認証評価への関心が高まっていることと、大学が増えたことに伴い、質保証の重要性が増している。適合、不適合の結果は一目で分かるようにしてほしい。
公表項目	2	改組、新設、新課程入試等の情報や、入試の情報があれば汎用性が広がると思う。
公表項目	3	企業や大学でも社会人学習が重視されているので、閲覧者の想定に社会人を加え、リスキル・リカレント学習に対して内容を拡大してほしい。
公表項目	4	アメリカが卒業後の収入の情報を提供しているように、日本でも家計に関わる情報が必要になってくると思う。
公表項目	4	今の経済状況では授業料や奨学金の情報がかなり大きな要素であると思われるが、記載が十分でない学校が散見された。
公表項目	5	学修成果の可視化と合わせて大学情報の公表が大学分科会の検討課題となり、教学マネジメント指針で公表例が示されるとともに大学ポートレートについても活用を考えていく必要があるということが入っている。今後、質保証システム部会で公表義務化が検討される。
公表項目	6	在籍・退学・留年の情報は本当に必要だと思っているので、公表の充実を図ってほしい。
公表項目	6、7	法科大学院については、志願者数や標準修業年限修了率、中退率など特定の情報の公表が法律及び省令で義務化されることとなり、これが1つのモデルになることも考えられる。ただし、中退率に関しては、理由を示さず単に数値のみを公表した場合に問題が生じるのではないかと思われる。
検索機能	8	検索条件に合致する学部を探すには検索後に結局1つずつページを開かないと分からない。利便性も考えた方がよい。
検索機能	8	本当に欲しい情報に辿り着くことが難しいところがあった。
検索機能	8	高校3年生には受験科目等の入試情報での検索機能があるとよい。Kei-Netと相互リンクを貼るなど対応できる可能性があるのでは。
検索機能	9	（参加大学のみ表示される仕組みであることから、）所在地を選択して検索した場合に検索結果がゼロと表示されると、そこに大学が存在しないかのようなミスリードになる可能性があるため、不参加大学の一覧を示すなどすると良いのではないか。
一覧機能	10	大学ポートレートは比較するためのものではない、とのことだが、利用者側には当然比較に用いたいというニーズがある。
一覧機能	10	利用者としてはやはり大学を比べたい。順位が出るような比較ではなく、選んだ2校、3校を1画面で見られるような機能があれば使い勝手が上がる。
更新	11、 12	キャンパスの移転など最新の情報に更新できていない箇所や情報の空欄に対応してくれると良い。
更新	12	更新が遅い印象があり、情報の鮮度が古い。現在の情報がステークホルダーに見えるような状況にしてほしい。
デザイン	13	ブラウザによってはレイアウトが崩れているので各種ブラウザへの対応をお願いしたい。
デザイン	14	情報が多すぎても人は離れてしまう。欲しい情報にたどり着くのも難しくなる。検索機能の充実や、「どのように見ることが効果的か」がわかる情報を検索画面または別ページで示すなどが考えられる。

区分	No.	意見（過去の「ステークホルダー・ボード 主な意見」より抜粋）
デザイン	15	小難しい言葉が多いため、読み手を意識した言葉を選んでもらえると良い。
デザイン	16	大学でも多くの情報を発信しているので、リンクを貼るなどして詳細は大学のページで見ってもらうのが、不便ではあるが正攻法かもしれない。その際、上手に誘導できるような形が理想かと思う。
広報	17	アクセス数だけでなく、アクセスログから、どこからどのような人がどのページにアクセスしているのか等の詳細を分析することが重要である。
広報	17	アクセスの分析は、どういったステークホルダーに見られているか、誰に対して情報提供するかという点で貴重な情報であるため、引き続き把握して欲しい。
広報	18	大学ポートレートを運営するうえでは、事業理念を確立し、各ステークホルダーのニーズを確実に把握していく必要がある。
広報	19	大学ポートレートを高校で活用させるためには、主要大学説明会や教職員支援機構主催の教職員等中央研修等の場で高校教員に実際に使ってもらい、適切に大学選びができる効果を実感してもらうことが鍵になる。
広報	19	日本学生支援機構の奨学金などは必ず文部科学省の都道府県教育委員会などへの伝達事項に入っているが、同じことを大学ポートレートでも行っていただきたい。
広報	19	紙のチラシなどを配付しても自分でアクセスしない限り閲覧できないので、大学ポートレートへのリンクを各高校のウェブサイト等に貼ってもらってはどうか。
広報	19	ワークシートをいろいろな学校で利用してもらえるとすると、大学ポートレートの利用度が上がってくると思う。知念先生の資料を必要に応じて大学ポートレートセンター事務室から他の高校等に提供してはどうか。
広報	19	教師、保護者、研究会へ大学ポートレートを紹介してもあまり響かない原因には、大学ポートレートをどのように利用して良いかが、分からない所がある。実践事例や使い方の紹介が必要かと思う。全国高等学校進路指導協議会や各都道府県進路指導団体の大会での実践事例発表は効果的かと思う。
広報	19	今の生徒は情報検索にInstagram（インスタグラム）を利用しているので、広報活動の強化として活用してみてもどうか。
広報	19	生徒・保護者への周知が必要だ。コンテンツをどう使ってもらうか、その見せ方も工夫できると良い。
広報	19	大学を検索するサイトは他にもいくつかあり、その中で大学ポートレートにたどり着くこと自体が難しい。また、PTA連合会や高校の先生等が一度はアクセスするよう、組織を通して誘導していく必要がある。
広報	20	採用等において、企業は各大学がどの学問をどのように展開しているかを意外と知らず、大学ポートレートもほとんど知らない。企業への周知は大きな課題だ。
活用	21	IPEDSのようにローデータを一般公開することは大事。政策関係者・研究者が使いやすいようCSV形式でダウンロードできるとよい。 IPEDSは学生にとって必要なデータが少ないという反省を生かして、学生・親視点に立ったデータ提供を目的としたカレッジスコアカードが公開された。地元の大学に行く学生や成人学生等にはカレッジスコアカードのデータが学生支援サービス等で使われたりしていると聞いたことがある。
活用	21	大学のIR担当者等が分析を行うに当たっては大学基本情報の公開データをBIツールが使える形式に変換しなければならないが、各大学が同じような作業をするより、どこかが一括して作業してくれるほうが大学の負担も軽くなる。
活用	21	IPEDSのデータはCSVでの出力が可能で加工も容易。
活用	22	情報活用を促進するためには、データ変形のトレーニングや、データをどのように可視化し、どのような図を作るのがよいのか意見交換ができるユーザーコミュニティを作っていけるとよい。

区分	No.	意見（過去の「ステークホルダー・ボード 主な意見」より抜粋）
活用	22	ヘビーユーザーを作るためにはどうしたらよいかという点に関して、IPEDSのデータの公開の仕方は参考になるのでは。
活用	23	「大学基本情報」への分かりやすいリンクが無いのはもったいない。
国際発信版	24	国際発信版の「News from school」については、実際にはニュースではなく更新情報になっている。大学の英語版ウェブサイトでも英文ニュースを発信していることが少なくないため、国内版の「大学ニュース」と同様のものを国際発信版にも設け、大学が配信する英文ニュースを誰に伝えたいかを考慮の上で選別して掲載してはどうか。
国際発信版	25	国際発信版は多くの公表項目がリンクになっており、文字情報が非常に少ない。大学が入力した情報が少ないと空のページに見える。留学希望者からよく質問をされる情報を試しに検索したが、ページの記載内容が不十分で必要な情報が確認できなかった。大学の作業負担の軽減を考えた結果、利用者にとって不便なものになっている。
国際発信版	26	国公立版と国際発信版もレイアウトが異なるため、進路指導を行う際に使いにくいことがある。
私学版	27	国公立大学の情報活用について、私立大学でも使えるようにしてほしい。
私学版	27	私立大学について学校基本調査を使った分析はできるが、私立大学のデータは大学基本情報ほど細かくなっていないので大学全体の動向を知る程度にしか活用できない。国公立大学が提供しているような私立大学の個票レベルのデータを共有できるのかというのがポイント。
私学版	27	大学でIRをするにあたり、私立大学の情報が網羅的に収録されていないという問題があり、今出ている情報だけでは使えない部分が多いと思う。
私学版	28	私学版のページから全体のトップページへも戻れるようにしてほしい。

（2）全体の方向性に関する意見

区分	No.	意見（過去の「ステークホルダー・ボード 主な意見」より抜粋）
全体	29	当初は生徒と保護者が第一義的なステークホルダーであり、それに比べ大学や企業は二義的な想定で立ち上げた。しかし、大学情報の公表やアカウントビリティ、他大学の分析、情報ツールの提供などを踏まえると、ステークホルダーについて今一度議論が必要になってきているように思う。
全体	29	大学ポートレートが想定する利用者として政府や企業も含まれているが、そこに対しての目的が若干分かりにくい。誰をターゲットにするかというところをもう少し改善してほしい。
全体	29	大学ポートレートは目的が非常に多く、広く、難しいことを行おうとしている。一方で、提供する情報の収集には限界があり、民間企業に勝てない領域が出る。目的を絞り、機構でしか収集・提供できない情報で勝負した方がよいのではないか。
全体	29	各大学が英語の民間試験をどう活用しようとしているのかなど、高大接続に関する情報を集約したウェブサイトがない。本来は大学ポートレートという各大学が責任を持って情報発信しているサイトが、そういった役割を担うべきではなかったのか。基本的な情報が一堂に会しており、ここを見れば間違いないという存在になれば、アクセス数も増加すると思う。
全体	29	対象によって扱うデータ項目やデータの見せ方も変わってくる。誰がどのような情報をほしいのか、大学ポートレートが特にどこに主眼を置くのかある程度焦点を定めること、目的と対象とするステークホルダーにも関わってくる部分を改めて考えることが必要。
全体	29	高校生向けと大学IR向けで求められている情報がどこまで重なるのか、その情報の見せ方について考えていく必要がある。そのためどの目的を優先して誰に向けて見せていくのかの本質的な議論が必要。

区分	No.	意見（過去の「ステークホルダー・ボード 主な意見」より抜粋）
全体	29	高校側として大事なことは信頼できるデータであるかということであり、大学ポートレートにはその期待がある。公開されるべきものは全て公開されており、大学ポートレートを見れば大学の事を全部調べられるようなデータベースを構築出来たら良いと思う。
全体	29	何のために、誰のためにやっているのか、限られた予算の中でどのようにすると効果的なのかという議論がとても大切だと思う。
全体	29	大学の教育や学位の価値を可視化するにあたり、日本の大学では何を指標とするか。その社会が重視する価値に対応した「問い」を大学ポートレートがどう打ち出すかは、大きな論点になる。
全体	30	私学版が別サイトになっているのは分かりづらく、どこで検索すればよいのか受験生が戸惑ってしまう要因になる。
全体	30	国公立版と私学版でレイアウトが統一できるよい。
全体	30	中央教育審議会大学分科会質保証システム部会で、大学ポートレートの国公立版と私学版でプラットフォームが異なるため検索が不自由だと指摘があった。
全体	30	大学セクターの枠組という意味において、日本の大学の状況を全く知らない人が見たとき、国公立と私学が分かれていることが隠れたメッセージを発してしまうのではと懸念している。
全体	31	作る側は構造が分かっているても、閲覧者側から分かりやすい形ではない。利用者側の視点で考えてほしい。使いづらい点や利用者はどういったところに不満を持っているかなど、利用者側の意見が得られるとよい。
全体	31	一般ユーザーは過去2～3年までのデータぐらいしか得られないと思うので、過去に遡って全てのデータを一般公開できるようになればよい。さらに、学生目線に立ったデータ公開についての議論が行われればと思う。
全体	31	大学のIR担当者や研究者が比較して分析できるようなデータを整備し、ヘビーユーザーが欠点を見つけてコミュニティで議論し、使えるように加工されたものを高校生や保護者に提供していく方が使い勝手がよいのではないかな。
全体	31	公開データの定義にばらつきがあるのを解決しようという民間レベルのコモンデータの動きがあり、日本でもそういうことを今後想定する必要があるかもしれない。
全体	32	大学ポートレート事業を進める上では、時々の声に耳を傾けるのではなく、ロードマップの策定が必要であり、計画に沿って事業展開する必要がある。